

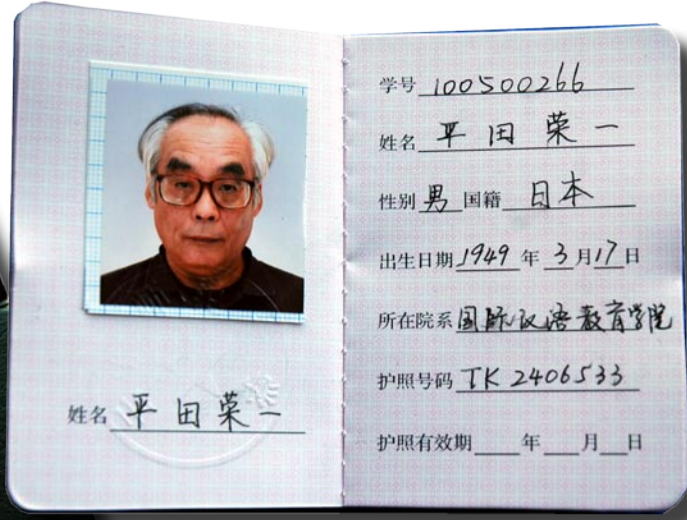
# 我是雲南師範 大學的留學生

9月26日(日)。  
ビザの延長申請書を9日に提出して2週間が過ぎるの学務課からはなんの連絡もない。少々心配になって責任教師の牡丹丹先生に問い合わせたところ、学務課に行ったら確かめるとのことなので、バッドさんといっしょに3階の学務課へ行った。

学務課のビザ担当の女性のデスクへ行くと、われわれの顔を見た瞬間に、座席の脇から布袋を「よいしょ」と取り上げて、デスクの上へドスン。そうか「用件はわかっているから、勝手に探して

持っていけ」ということだろうと解釈して、バッドさんと二人で袋の中のパスポートをすべて彼女のデスクの上に広げた。バッドさんの顔を見ると、にんまりした顔からウィンクが返ってきた。

100冊くらいはあるだろうか。結構な数である。赤いパスポートはそれほど多くない。その中でも日本の「赤い」パスポートは明るい赤なので、すぐに見つけることができた。だが、バッドさんのパスポートはグリーンだったので、なかなか見つからない。端から1冊1冊取り上げて表紙を見てポーランド国のもを探し、中を確かめるしかかった。



個人情報を見ることができないので、脇でだまって眺めていたが、ふと気付いた。外国のパスポートを見るのは初めてのことだった。大きさはほとんど変わらないが、表紙の色は種々様々。と言っても、グリーン系、ブルー系、赤系に大別される。この3色がそれぞれに微妙な色合いで違っているのがわかった。どちらかと言えば、グリーン系が多いように見えた。表紙に金銀の箔押しで国名が印字されているのは、どの国も同じデザインがそれぞれに違う。どれも美しい装丁である。日本国のもは「優しい」感じがした。パスポートにも国柄が見えるようだった。

パスポートを確認すると、私のビザの有効期限は2011年2月20日となっていた。バッドさんは1年間だった。

9月27日(月)。  
学生証が交付された。5時限目と6時限目の間の休憩中に牡丹丹先生から受け取った。先生曰く、「映画館や書店さん、デパートで学割が使えるから活用しなさい」と。

モスグリーン系の表紙に「雲南師範大学学生証」と箔押しされた小冊子だが、中を開いてみると、「学号 100500266」、「姓名 平田 栄一」と書かれていた。私は真正銘の雲南師範大学学生である。ただし、有効期限は2011年1月31日までだ。

40数年ぶりの学生証はどことなく眩しかった。

## 中秋の節句



9月22日から24日まで昆明は「中秋節」で華やいだ。かつて、中国は古い習慣や迷信などの非科学的なものを全否定していた時期があったが、改革開放政策に転換してから、古くからの伝統的な祭りや習慣的行事などが復活した。しかしながら、すべてを休みにしたのでは、経済活動や社会活動が停滞してしまうということで、前後の土日に振替えている。1週間後には国家的祝日である「国慶節」の休暇が控えているので、尚更のことらしい。

日本では「秋分の日」と言うが、中国では「中秋節」という伝統的な呼称が残っている。あらためて「中秋」という文字を目にするとなんとなく懐かしく、「節」という表現にどことなく風情を感じるの中国にいる所為だろうか。

そんな情緒的な話はさておいて、現代中国社会は大量消費社会である。中秋節には家族・友人・知人に

「月餅」を贈るのが習わしで、今や企業間の挨拶代わりにして欠かせない。日本の「お中元」や「お歳暮」といったところだろう。これを当て込んだ「月餅」販売合戦が至る所で繰り広げられていた。昆明一番の繁華街、南屏街の広場には臨時の販売所が設けられていたが、そのすぐそばで行われた「七宝」(清涼飲料水の「セブンアップ」のこと)のド派手な販促イベントに客を奪われて閑散としていた。

「月餅」も様変わりしている。大手菓子メーカーが作る当世風の大量生産品が幅を利かせ、伝統的な形と味の月餅が少なくなってきたそうだ。古来から続いてきた街場のお菓子屋さんがどんどん廃業しているようで、伝統的な味を惜しむ人もいる。24日夜、大型スーパーでは、売れ残った大量の「月餅」が投げ売りされていた。イヴを過ぎたクリスマスケーキと同じだ。

さて、国際漢語教育学院は、雲南師範大学あるいは他の大学の専攻課程への進学を希望する海外の学生を対象に、本科入学に必要な充分な中国語能力(読み書き・会話能力)を身につけさせることを目的としている。したがって、ここでの学習成績如何によって、専攻課程へ上がれるかどうかが決まる。聞くところによると学期ごとのアチーブメントテストで90点以上の成績が求められるという。そうとうにハードルは高いようだ。

私が所属するクラスは「漢語入門B班」といい、北京語の基礎の基礎から学習するクラスである。「入門」課程の基本は、ピンインと四声(中国語の発音)と簡体字を覚えることにある。日本人の私には簡体字の意味はまあまあ理解できるのだが、簡体字のピンインがわからない。クラスメートの諸君は簡体字は覚えるのが難しいようだ。彼らは、「入門班」をできるだけ早く卒業して、「初級班」、「中級班」、「上級班」を経てその後、専門の学習コースへ進まなくてはならない。それが本来の目的だから。彼らにとってここは通過点なのだ。私と席を隣にするベトナムのティエン君は毎夜2時、3時まで簡体字をノートに書き写して復習しているそうだ。気楽な私などは気合いが違う。

授業は「漢語総合」「漢語口語」「漢語閲読」の3教科を月曜日から木曜日までの週4日間で合計18時間履修しなければならない。すべての授業は中国語で行われるが、時に応じて英語で補足してくれるので、授業内容はそれほど難しくはない。だが、どの授業も次々に指名されて無理矢理に発

| 教科   | 星期一 (月曜日) | 星期二 (火曜日) | 星期三 (水曜日) | 星期四 (木曜日) | 星期五 (金曜日) | 担任教師 |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
| 漢語総合 | 7、8       | 1、2       | 1、2       | 3、4       | —         | 王寧   |
| 漢語口語 | 5、6       | 3、4       | 3、4       | —         | —         | 牡丹丹  |
| 漢語閲読 | —         | 5、6       | —         | 5、6       | —         | 饒麗   |

1時限 8:30~9:15 / 2時限 9:25~10:10 / 3時限 10:20~11:05 / 4時限 11:15~12:00 / 5時限 13:00~13:45 / 6時限 13:55~14:40 / 7時限 14:50~15:35 / 8時限 15:45~16:30  
各時限の間に10分の休憩。昼休みは12:00~13:00の1時間。



3教科のテキスト。左から『漢語総合』、『漢語口語』、『漢語閲読』

音させられ、正しい発音ができるまで気を抜く隙がない。「沈黙は金」ならぬ「禁」なのである。途中で10分間の休憩をはさんで、90分間、それははみっちり行われる。90分間はあつという間である。

と言いつつも、授業中のクラスは緊張した空気に包まれているわけではなく、和気あいあいと往々にして笑い声が出るほどである。これから先どう変わるかわからないが。